

アイガモと一緒にお米を育てる農法をご存知ですか？
 無化学肥料・無農薬で環境にやさしい循環型の水稲栽培です。
 収穫の秋には、新米の味を楽しみ、アイガモもお肉として美味しくいただきます。
 どんな風にお米を作るのか、それぞれの季節ごとに追ってみました。



6月 June 田植え・誕生

田植えの1~2週間後に稲の根がつくので、稲の生長とアイガモの成長を願いながら、孵化して2・3週間ほどのアイガモの雛を田んぼに放ちます[放鳥]。



アイガモ達と美味しいお米を育てるぞ!

マガモとアヒルの交配種がアイガモ[俗名]だよほとんど飛べないよ!



鹿児島市在住のアイガモ農家のお2人

植物は、太陽の光と水と土に含まれる養分を吸収して成長しています。この素晴らしい地球に感謝しつつ、植物の「いのち」をいただきます。

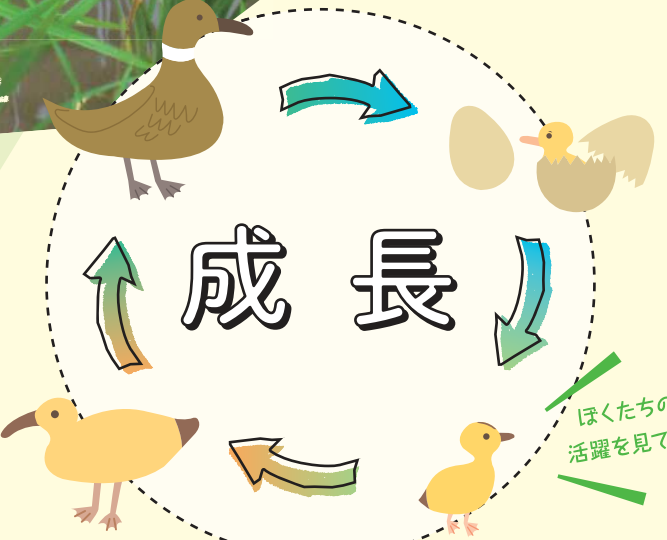


飯田さん (霧島で5年目)



橋口さん (川上町で30年)

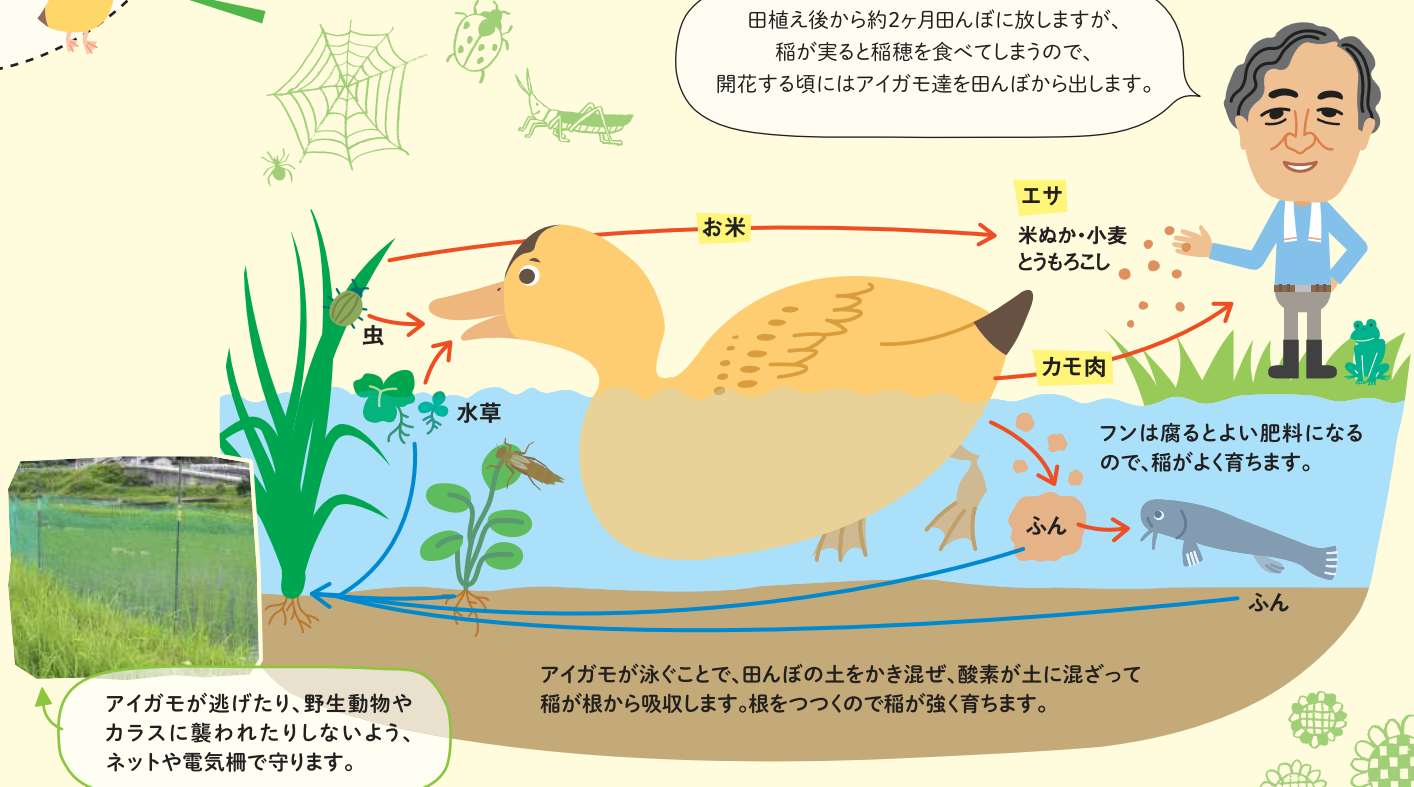
合鴨の命に感謝して大切に頂く...お米と一緒にすくすくと育った合鴨たちは、冬には脂がのって身も柔らかくちょうど食べごろになります。



8月 August 営み・自然

アイガモ達が稲につく害虫や雑草などを食べてくれるので、農薬や化学肥料いらず! おかけで水や土を汚さず、田んぼにはいろいろな生き物や虫が生息しています。

田植え後から約2ヶ月田んぼに放しますが、稲が実ると稲穂を食べてしまうので、開花する頃にはアイガモ達を田んぼから出します。



アイガモが逃げたり、野生動物やカラスに襲われたりしないよう、ネットや電気柵で守ります。

アイガモが泳ぐことで、田んぼの土をかき混ぜ、酸素が土に混ざって稲が根から吸収します。根をつくので稲が強くなります。

10月 October 収穫

黄金色の稲穂が田んぼ一面に広がり、収穫の時を迎えます。飯田さんのアイガモは別の場所へお引っ越し。橋口さんのアイガモは、食用肉として加工・販売するため、エサをたっぷりあげて大事に育てます。

6月の田植えから始まって、アイガモ達と共に育まれたお米。



新しい就職先!

↑新しいお仕事は、ブルーベリー農園での下草取り。お米の次はブルーベリー! 人と食べ物をつなぐお仕事は続きます。



少し高めだね。でも、毎日アイガモ達やお米にたっぷり愛情を注いで育てているよ。

このお米の値段って、高いんじゃない?

